

代名詞代用・呼びかけ表現のデータセット

谷口 龍子, 大久保 弥, 野元 裕樹, 南 潤珍 (東京外国語大学)

日本語学会第164回大会 2022年6月18日-19日

発表の要点

- 岡野他(2022)に基づく代名詞代用・呼びかけ表現の調査を行い、多言語データセットを作成した
- データセットに基づく比較・分析により、用法の分布や過去の研究の予測の検証を行った

1. 代名詞代用(自称・対称)・呼びかけ・敬称

代名詞代用表現

人称代名詞ではないものの一人称・二人称人称代名詞のように話し手・聞き手を指示する表現 (Sneddon et al. 2010)

呼びかけ表現

聞き手を同定したり、注意を喚起するために用いられる表現

敬称

固有名直後に生起する。「さん」などの敬称専用表現と同じ形態統語的振舞い。

自称(一人称)

- [兄が妹に] お兄ちゃんの言うこと聞かなかったら、お母さんに言いつけるよ。

呼びかけ

対称(二人称)

- [娘が母親に] お母さん、お母さんのお兄ちゃんの名前、何だっけ?

敬称

(野元他 2021: 64)

- 健お兄ちゃん

2. 調査項目および調査方法

岡野他(2022)の共通調査表

- 16種類・147項目の意味・形態統語カテゴリーを設定
- https://github.com/matbahasa/ProSub/blob/main/common_questionnaire.tsv で公開されている

意味的カテゴリーの区別	形態統語的カテゴリーの区別
年齢, 親族, 虚構的親族, 教育, 関係, 職階, サービス, 宗教, 王室	照応表現, 量化表現, 指示詞, 固有名, 修飾を伴う名詞句, その他, 人称代名詞

血縁関係のない人物に対して仮定される疑似的な親族関係のこと

各カテゴリーは日本語・英語で記述された概念を含む

ID	概念(日本語)	概念(英語)	Wordnet synset ID	カテゴリー
8	父	father	10080869-n, 09988063-n	Family
9	母	mother	10332385-n, 10278128-n	Family
10	伯父(父の兄)	uncle (father's elder brother)	10736091-n	Family
11	伯父(母の兄)	uncle (mother's elder brother)	10736091-n	Family
12	叔父(父の弟)	uncle (father's younger brother)	10736091-n	Family

表1. 代名詞代用・呼びかけ表現研究のための共通調査表からの抜粋

ID	日本語	朝鮮語	マレー語	インドネシア語	ジャワ語	タイ語	ベトナム語	ビルマ語
8	父, お父さん01, パパ01, おやじ01	아버지, 아버님01	ayah, bapa	ayah, bapak01, papi, rama01, bapak01,	papa, papah, papah, pak'e	via01	bố	ဒေဝု01, ဝေဝေ01,
35	お父さん02, お父様02, おやじ02	아버님02	pak	bapak02	rama02, bapak02	via02, via03	bố	ဒေဝု02, ဝေဝေ02

表2. 各言語における親族の「父」(ID 8)と虚構的親族の「父」(ID 35)

各言語で各概念に対応する表現を列挙した。

調査方法

- 各表現について、4用法の有無を内省・聞き取り調査・実例調査により調べ、可能な限り例文を収集した。

3. データセットの概要

調査結果に基づくデータセットの構築

- <https://github.com/matbahasa/ProSub> で公開されている

言語	日本語	朝鮮語	マレー語	インドネシア語	ジャワ語	タイ語	ベトナム語	ビルマ語	計
表現	191	236	126	123	148	168	109	255	1,356
例文	516	934	340	290	282	378	329	379	3,443

表3. 各言語における登録表現・例文数

データセットに含まれる情報

- 言語コード
- 概念 ID, 概念(日本語), 概念(英語), 意味カテゴリー
- 表現, 表現和訳, 表現英訳
- 用法, 容認性, 例文, 例文和訳, 例文英訳
- 出典, 備考

- 用法は、「自称」「対称」「呼びかけ」「敬称」の4用法
- 容認性は、yes(容認可能, 用法あり), no(容認不可能, 用法なし), * (敬称付きならyesなどの条件付き), ? (不明瞭, 要確認)の4段階

4. 言語学的考察

4.1. 容認可能な表現の割合

- 表4: 登録表現のうち、いずれかの用法が認められるものの割合をまとめた
- 指摘1: 「対・呼 > 自・敬」が全ての言語で成り立つ
- 指摘2: 「対 > 呼」か「呼 > 対」が成り立つかは言語ごとに異なる
 - 「対 > 呼」が成り立つ朝鮮語・タイ語・ビルマ語では、「自 > 敬」が成立する
 - よって、代名詞代用表現の重要性が相対的に高いと言える
- 指摘3: 日本語・ベトナム語以外では「敬」が最も低い値を示す

言語	日本語	朝鮮語	マレー語	インドネシア語	ジャワ語	タイ語	ベトナム語	ビルマ語
自称	24.6	68.2	19.0	26.0	43.9	34.5	24.8	29.0
対称	57.6	86.4	32.5	45.5	52.7	68.5	55.0	54.5
呼びかけ	58.1	80.1	42.9	54.5	63.5	67.3	63.3	47.8
敬称	28.3	29.2	19.0	23.6	36.5	26.8	36.7	11.8

表4. 容認可能な表現の割合(単位: %)

4.2. 容認可能な用法の組み合わせ

- 図2: 各表現ごとの容認可能な用法の組み合わせを調べ、そのパターンの頻度をまとめた
- 全体として、対称と呼びかけの頻度が高い
- 日本語では4つの用法を持つものが多いが、他の言語ではそうではない

	日本語	朝鮮語	マレー語	インドネシア語	ジャワ語	タイ語	ベトナム語	ビルマ語
用法なし	70	11	73	48	20	41	34	91
自	2	15	6	5	5	10	6	9
対	5	10	3	4	1	1	2	19
呼	9	2	19	15	13	0	7	3
敬	7	1	7	5	3	10	4	6
自/対	7	10	0	1	0	1	0	1
自/呼	0	2	0	1	1	0	0	1
自/敬	0	0	0	0	0	1	0	0
対/呼	41	55	13	16	20	55	21	41
対/敬	0	1	0	1	1	0	0	2
呼/敬	2	0	4	3	2	0	6	3
自/対/呼	14	106	28	19	15	30	8	53
自/対/敬	0	0	0	0	0	0	0	0
自/呼/敬	0	1	0	0	0	0	0	0
対/呼/敬	19	31	7	12	11	15	19	8
自/対/呼/敬	60	83	5	22	29	27	27	10

図2. 容認可能な用法の組み合わせ

4.3. 対称と呼びかけの関係性

- 田窪(1997: 22)は日本語に関して「呼びかけ語は、職階等をタイトルとして含んだもので、文内対称詞 [=代名詞代用表現] が職階を残して省略したものである」と述べている
- (4a)の対称の「課長」は、呼びかけとして既出の「田中課長」の名前「田中」を抜いてできた省略形と分析される
- (4b)で呼びかけの「課長」と対称の「田中課長」が同一人物を指示する解釈を持ってないのは「対称=呼びかけの省略形」という関係が成り立たないため

- (4) a. 田中課長、課長はこの案件に賛成ですか。
b. 課長、田中課長はこの案件に賛成ですか。 (田窪 1997: 22)

- 対称と呼びかけの分布の相関
- 4.1節の「対・呼 > 自・敬」という通言語的特徴、4.2節の対称と呼びかけを含む組み合わせの高頻度と整合する
- だが、分布の背景に「名前の省略」があるかについて疑問が残る
- 対称が「名前+敬称」からの名前の省略ならば、以下の2点が成り立つと予測される

- (5) 予測1: 対称用法が容認可能ならば敬称用法も容認可能である。
予測2: 敬称用法が容認不可能ならば対称用法も容認不可能である。

- 表5: データセットの人称代名詞以外のカテゴリーを対象に、各予測が成り立つ割合を検証した
- 割合は100%には程遠く、名前の省略説は支持されない
- 両予測の反例: 「奥さん」「ダーリン」「そちら」など 対称として用いられるが、敬称で用いられない

言語	日本語	朝鮮語	マレー語	インドネシア語	ジャワ語	タイ語	ベトナム語	ビルマ語
予測1	47.4	33.7	30.8	41.5	48.6	29.7	56.6	16.0
予測2	51.7	14.3	71.3	65.1	42.2	26.8	56.6	46.5

表5. (5)の予測が成り立つ割合

- ただし、「同一指示が許されるのは、一番構造的に高い位置にある名詞句が一番情報量が多い場合である。逆の場合は、同一指示が成り立たない」(田窪 1997: 23)というLasnik (1989)の束縛条件Dという、名前の省略とは独立した制約により説明できる

4.4. 親族名称の非対称性

- 日本語では、親族名称が代名詞代用表現として用いられるのは目上の場合のみで、目下にはそれができない(鈴木 1973)
- 「お父さん」「お姉ちゃん」等は使えるが、子・弟・妹を表す語は代名詞代用で使えない
- 野元他(2021): 日本語に見られるこのような目上・目下の間での非対称性は、朝鮮語・マレー語・インドネシア語・ジャワ語・タイ語・ビルマ語には見られないと指摘
- 本稿のデータセットでもこのことが追認できた
- (6)の朝鮮語の例では、아이「子」が話し手・聞き手を指示するのに用いられている

- (6) a. 아이가 이렇게 힘든데 엄마는 어떻게 그럴 수 있어?
「子供(=私)がこんなに大変なのにママはどうしてそうなの。」
b. 아이들은 조용히 해!
「子供たち(=あなたたち)は静かにすること!」

参考文献

Lasnik, Howard. 1989. On the necessity of binding conditions. In *Essays on Anaphora*, 149–167. Dordrecht: Kluwer Academic Publishers. / 野元裕樹, スニサー ウィッタヤーバンヤーノン(齋藤), 岡野賢二, トウザライン, 南潤珍, スリ・ブディ・レスター. 2021. 「代名詞代用・呼びかけ表現研究の現状:タイ語、ビルマ語、マレー語、インドネシア語、ジャワ語、朝鮮語」『言語学研究所論集』25: 63–78. 東京外国語大学. doi: 10.15026/100158 / 岡野賢二, 野元裕樹, スニサー ウィッタヤーバンヤーノン(齋藤), トウザライン, 春日淳. 2022. 「アジア三言語における代名詞代用・呼びかけ語の共通項目調査」『言語処理学会第28回年次大会発表論文集』69–73. / Sneddon, James Neil, Alexander K. Adelaar, Dwi N. Djenaar & Michael Ewing. 2010. *Indonesian: A Comprehensive Grammar* (second edition). London: Routledge. / 鈴木孝夫. 1973. 『ことばと文化』岩波書店. / 田窪行則. 1997. 「日本語の人称表現」田窪行則編『視点と言語行動』13–44. くらしお出版.